

日本の年中行事で、神に特別な食物を供えて祝う祭日を、「節句」と言います。これは、中国の陰陽思想において、奇数を「陽」、偶数を「陰」と考え、奇数の月に祭事を行っていたことに由来し、一月七日の「人日」、三月三日の「上巳」、五月五日の「端午」、七月七日の「七夕」、そして九月九日の「重陽」の五つが存在します。

ちなみに、これらは元々旧暦の日付であり、現代の暦とは約一ヶ月のずれがあります。現代社会に生きる私たちにも大変馴染み深いものとして受け継がれて

います。日付を聞いたただけで、一月七日は「七草粥」、三月三日は「雛祭り」、五月五日は「こど

さて、九月の節句といえは「重陽」ですが、五節句の中ではやや印象が薄いと感ずるかもしれ

なることから「重陽」と呼ばれる九月九日には、古来より長寿を祈る祭事が催されてきました。また、



今月のことば

ちようよう

「重陽」



この時期に見頃を迎える菊の花は、中国では長寿の花とされることから、重陽の節句に菊を愛でる宴が催されるようになったと言われています。

このように、五節句の中でも極めてめでたいとされていたのが重陽の節句です。日本の伝統行事に思いを馳せながら、九月九日は無病息災を祈る一日としてみましょう。

もの日、七月七日は「七夕飾り」等の行事がすぐに思い浮かぶのではないのでしょうか。

ません。しかし、陰陽思想では、一桁の奇数で最大の「九」は、最もめでたい陽数であり、陽が重